第５表

５．各事業所の桟橋能力

貯蔵事業所		港湾水深（m）	桟橋①				桟橋②				桟橋③				桟橋④			
運営会社名	事業所名		受出	着桟可能船型	出荷可能油種	ポンプ能力（kl/h）	受出	着桟可能船型（t）	出荷可能油種	ポンプ能力（kl/h）	受出	着桟可能船型（t）	出荷可能油種	ポンプ能力（kl/h）	受出	着桟可能船型（t）	出荷可能油種	ポンプ能力（kl/h）

備考　１　用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。
２　各欄には前年度３月末時点における能力を記載すること。
３　事業所に桟橋が5か所以上ある場合は、2行以上を用いて記載すること。
４　「港湾水深」欄については、桟橋ごとに水深が異なる場合はそれぞれ記入してください。（例…①25m、②40m）
５　「受出」欄には、受入専用であれば「受」、出荷専用であれば「出」、受け出し可能であれば「受出」の別で記載すること。
６　「出荷可能油種」欄には、可能な油種を以下の略号にしたがって記載すること。
ガソリン・灯油・軽油：白、Ａ重油・Ｃ重油：黒、ジェット燃料油：ジ
（記入例）ガソリン、灯油、軽油、ジェットのいずれも出荷可能な桟橋→白ジ
ガソリン、灯油、軽油、ジェット、Ａ重油のいずれも出荷可能な桟橋→白黒ジ